

平成30年度版 改善計画

学校名：市川高等学校

No.	項目	現状と課題	H31年度に目指すべき状態	①H30年度に実施する内容 ②H31年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	会議で連絡事項の説明が長いときがある。グレープウェアやメールを活用し連絡しているが、活用状況に差がある。	全教員がグレープウェアやメールでの連絡を心掛け、口頭での連絡には時間をかけない。	①会議等の口頭連絡はポイントを絞り短時間で済ませ、できる限りグレープウェアやメールを活用する。②会議等の連絡時間の短縮事例から対策を検討する。	
2	学校行事の負担軽減	学校行事の精選や内容の見直しを徐々に進めている。しかし、これ以上の行事削減は困難を伴う。	前年度の学校行事の5%で時間短縮・負担軽減がなされている。	①学校行事実施後すぐに振り返りを行う。特に、事前の準備も含め負担軽減の視点で振り返る。②学校行事における教員の負担軽減の方策を検討する。	
3	校内組織の見直し	新たな業務が生じても、現存組織で対応しているが、分掌内で業務の偏りが見られる。	全分掌の業務の平準化が進んでいる。	①週1回、分掌の打合せを実施し業務を分担・補助する。さらに、週の業務を記録し、来年度へ業務分担や人員配置の改善につなげる。②分掌の業務内容、人員配置を改善する。	
4	業務の効率化	グレープウェア、共有サーバ、Web教務システムがあるが、活用の余地がある。	コンピュータ上でデータを一元管理し効率よく仕事を進めている。教材データが共有されている。	①業務をネットワーク上で処理する機会を増加させ、さらに教材の共有化を推進する。②各分掌業務に関わるデータの共有化と一元化による効率の良い方法を検討する。	
5	部活動の負担軽減	「きずなの日」を設定しているが、その日に100%の定時退校は困難である。	全ての部活動が市川高校運動部のガイドラインに従い活動している。	①「きずなの日」（月2日）の定時退校を推進し、さらに別日への振替を実施することで、全員が月2回の定時退校を目指す。②市川高校運動部のガイドラインの周知・徹底。	
6	地域人材の活用	「i f人材バンク」や一部の部活動で人材活用があるが、活用の広がりが少ない。	本校における地域人材活用の具体的方策が明確になっている。	①地域人材の活用について全国の事例を収集し、活用の青写真を作成する。②本校における人材活用の在り方及び具体的方策を検討する。	
7	勤務時間の把握	勤務時間の把握するためエクセルによる個人申請を行っている。長時間勤務者がいる。	過度な長時間勤務をなくし、健全で効率的に仕事を進めている。	①エクセルによる勤務時間の管理と面接等により過度な長時間勤務をなくす。②業務の平準化を推進し、長時間勤務をなくす。	
8	業務改善対策	業務改善のための工夫を各教員が個人で実施している。	全教員が業務改善方法を共有サーバで閲覧し、業務改善が図られている。	①業務改善アイデア・工夫を集めた電子ファイルを作成し、共有する。②収集した工夫・アイデアの実施優先順位を検討する。	

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった